

信州の環境にやさしい農産物認証取得者事例調査票（野菜用）

認証取得者氏名	青木 正博	認証番号	50-00343	地事名	佐久
地域（標高）	佐久市（680m）				
土壌（土性）	黒ボク土				

項目	生産計画の内容	補足メモ	
1 栽培 状況	(1) 品目	きゅうり（品種：夏すずみ）	
	(2) 作型名	露地栽培	
	(3) 面積	6.4 a（3.2a×2作）	
	(4) 栽培戸数又は労働力	1戸	
	(5) 栽培期間	平成28年4月～平成28年10月	
	(6) 収穫期間	平成28年5月28日頃～平成28年8月10日頃（1作目）	
		平成28年8月27日頃～平成28年10月15日頃（2作目）	
	(7) 収穫量 (6.4a当たり)	H27実績 1,780 kg（うち出荷量：1,780 kg）	2,181kg/10a
H28計画 1,700 kg（うち出荷量：1,700 kg）			

2 栽培 方法	(1) 土づくり	<p>完熟たい肥（牛糞）を1.56t/10a施用、施用量は前年度からの残存窒素を考慮して決めています。 石灰・苦土・加里は土壌診断の結果を基に施肥量を算出、塩基バランスを考慮しながら施肥しています。 微生物剤を使用し、生育環境の改善を図っています。</p>																																															
	(2) 播種	平成28年 3 月中旬																																															
	(3) 育苗期間	平成28年 3 月中旬～4 月下旬																																															
	(4) 定植	平成28年4月中旬～下旬																																															
	(5) 肥培管理	<p>化学肥料を50%以上削減するために導入している具体的な技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元肥に、緩効性の有機肥料（なたね油粕、発酵ケイフン）を使用 ・追肥に、即効性の液体有機質肥料（液体ジャンプ）を使用 <p>技術を導入する際の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回、土壌診断を実施し、過剰なたい肥投入を行わないようにします（窒素分が過剰になるのを防ぐため）。 ・追肥は気温変化、無機化率から残存窒素量を推計し、過剰施肥にならないよう、必要最低限の量で行います。 ・栽培品目と肥料の特性を理解し、適した時期に追肥を行っています。 （肥料を必要とする時期はいつなのか、即効性なのか緩効性なのか） <p>肥料の施用内容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 5px;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">肥料の種類</th> <th rowspan="3">施用量 (kg/10a)</th> <th colspan="4">成分量(kg)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">窒素</th> <th rowspan="2">リン酸</th> <th rowspan="2">加里</th> </tr> <tr> <th colspan="2">うち化学由来</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>なたね油粕</td> <td>263</td> <td>14.7</td> <td>0</td> <td>6.6</td> <td>3.4</td> </tr> <tr> <td>発酵ケイフン</td> <td>158</td> <td>4.7</td> <td>0</td> <td>11.0</td> <td>6.3</td> </tr> <tr> <td>NK化成06号</td> <td>62</td> <td>10.6</td> <td>10.6</td> <td>0.0</td> <td>10.6</td> </tr> <tr> <td>液体ジャンプ</td> <td>97</td> <td>5.8</td> <td>0</td> <td>1.0</td> <td>2.9</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>580</td> <td>35.9</td> <td>10.6</td> <td>18.6</td> <td>23.2</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>化学由来窒素成分量 (kg/10a)</td> <td>10.6</td> </tr> <tr> <td>地区慣行施肥量 (kg/10a)</td> <td>40.0</td> </tr> <tr> <td>低減率(%)</td> <td>73.5%</td> </tr> </table>	肥料の種類	施用量 (kg/10a)	成分量(kg)				窒素		リン酸	加里	うち化学由来		なたね油粕	263	14.7	0	6.6	3.4	発酵ケイフン	158	4.7	0	11.0	6.3	NK化成06号	62	10.6	10.6	0.0	10.6	液体ジャンプ	97	5.8	0	1.0	2.9	合計	580	35.9	10.6	18.6	23.2	化学由来窒素成分量 (kg/10a)	10.6	地区慣行施肥量 (kg/10a)	40.0	低減率(%)
肥料の種類	施用量 (kg/10a)	成分量(kg)																																															
		窒素			リン酸	加里																																											
		うち化学由来																																															
なたね油粕	263	14.7	0	6.6	3.4																																												
発酵ケイフン	158	4.7	0	11.0	6.3																																												
NK化成06号	62	10.6	10.6	0.0	10.6																																												
液体ジャンプ	97	5.8	0	1.0	2.9																																												
合計	580	35.9	10.6	18.6	23.2																																												
化学由来窒素成分量 (kg/10a)	10.6																																																
地区慣行施肥量 (kg/10a)	40.0																																																
低減率(%)	73.5%																																																

(6) 病虫害防除

化学合成農薬を50%以上削減するために導入している具体的な技術

- ・粘着トラップの使用による害虫（アブラムシ、コナジラミ）の補殺、発生予察
- ・病虫害発生源除去のための雑草刈取りの徹底
- ・病気のまん延防止のためのハサミ類の消毒（整枝、摘葉、収穫時）

技術を導入する際の考え方

- ・ほ場巡回、トラップの補殺状況から病虫害の発生を予知し、適切な防除を徹底します。
- ・畝間に除草シートを敷き込んで落ち葉（病葉・摘除葉）等の掃除をしやすくし、病原菌のまん延を防ぎます。

病虫害防除の内容（1作目）

	使用農薬名※	倍率・使用量	有効成分数	散布回数	成分カウント	除外カウント	慣行回数への付加カウント	慣行回数	対象病虫害
殺菌剤	① ハーモメイト水溶剤	1,000	1	5	5	5			うどんこ病 灰色かび病
	② ダコニール1000	1,000	1	7	7			8	べと病 炭素病等
	③ ベンレート水和剤	2,000	1	3	3			3	菌核病 つる枯れ病等
殺虫剤	④ アドマイヤー1粒剤 または モスピラン粒剤	1g/株	1	1	1			1	アブラムシ類 アザミウマ類 アブラムシ類 コナジラミ類
	⑥ サンクリスタル乳剤	300~600	1	2	2	2			うどんこ病 アブラムシ類 等
	⑦ ベストガード水溶剤	1,000 ~2,000	1	3	3			3	アブラムシ類 コナジラミ類
※農薬名に番号を付記				合計	21	7	0	15	

農薬の使用回数	14.0
地区慣行農薬使用回数	29.1
削減率(%)	51.8%

病虫害防除の内容（2作目）

	使用農薬名※	倍率・使用量	有効成分数	散布回数	成分カウント	除外カウント	慣行回数への付加カウント	慣行回数	対象病虫害
殺菌剤	① ハーモメイト水溶剤	1,000	1	5	5	5			うどんこ病 灰色かび病
	② ダコニール1000	1,000	1	5	5			8	べと病 炭素病等
	③ ベンレート水和剤	2,000	1	2	2			3	菌核病 つる枯れ病等
殺虫剤	④ アドマイヤー1粒剤 または モスピラン粒剤	1g/株	1	1	1			1	アブラムシ類 アザミウマ類 アブラムシ類 コナジラミ類
	⑤ サンクリスタル乳剤	300~600	1	2	2	2			うどんこ病 アブラムシ類 等
	⑥ ベストガード水溶剤	1,000 ~2,000	1	3	3			3	アブラムシ類 コナジラミ類
※農薬名に番号を付記				合計	18	7	0	15	

農薬の使用回数	11.0
地区慣行農薬使用回数	23.7
削減率(%)	53.5%

(7) 雑草防除	<ul style="list-style-type: none"> ・ 畝間に除草シートを敷き込む ・ 病害虫発生源除去のため、随時雑草刈取りを行う
(8) 収量の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収穫のピークは、1作目が6月上旬、2作目が9月上旬頃 ・ 9月上旬時点ですでに昨年度を上回る収量を得ています。前年比25%程増加の見込みです。
(9) その他特記事項	

3 販売状況	(1) 主な販売地域	県内（佐久市、軽井沢）、関東
	(2) 販売方法	直売所、スーパー
	(3) 県認証の活用方法	農産物や容器包装類への認証票（シンボルマーク）シールを貼付
	(4) 実需者や消費者の反応、メリット	減農薬・減化学肥料ということで、関東地域からの観光客や、別荘客の評判が非常に良いです。 また、旅館やホテルの提供食材としても好評いただいています。

始めた動機	就農するにあたって、減農薬・減化学肥料で取り組みたいと考えていました。それにあたってさまざまな認証制度を調べていたところ、本認証の事を知り取得しました。
農家のコメント	就農して5年が経過するので、これまで蓄積してきたデータ類を分析し、マニュアルを作成したいと考えています。

